

肢体不自由 (立位)

立位の肢体不自由のある人の中には、上肢や下肢に切断や機能障害のある人、座ったり立ったりする姿勢維持の困難な人、脳性まひの人などがいます。

移動については、杖などを使用して自力歩行できる人もいます。

コミュニケーションの配慮とポイント

障害の部位や程度は様々なので、移動や立つ、座るなどの動作が難しいことがあります。障害の部位や程度によっては、介助する必要がないこともありますので、声をかけて介助が必要かどうかを確認してください。

● 移動を手伝う必要があれば一緒に

下肢に障害のある人は、段差や階段、手動扉があると一人で進めない場合があります。また、歩行が不安定で転倒しやすい人もいます。一緒に歩く際は、相手のペースに合わせてください。

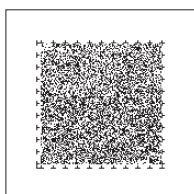
ドアの開閉や段差で介助が必要になる場合もあります。雨の日など通路が濡れている場合は、杖や義足が滑り、転倒する可能性があるため、特に注意が必要です。



階段を上るときは、斜め後ろから介助する



階段を下るときは、一段下で斜め前に立つ



● 障害の程度は外見からわかりにくい

脳性まひや脳血管疾患などの後遺症による肢体不自由や義足を使用している場合は、外見からは障害の程度がわかりにくいことがあります。相手の状態を観察し、必要に応じて対応してください。

■ 文字の記入に困っていたら代筆を

不随意運動があり、震えのために字が書けないことがあります。また、右利きだった人が、まひにより左手しか使えないといった場合は、文字を書くことが困難になっていることがあります。

肢体不自由のある人が、書類などの記入で困っていたら、声をかけて代筆のお手伝いをしてください。

■ 聞き取れないときは確認しましょう

言語機能に障害がある場合は、話をしたくてもうまく発音ができない人や、ゆっくりとしか話せない人がいます。そのようなときはわかったふりをせずに、一語、一語確認しましょう。

スマートフォンやタブレットなどを活用することもできますので、コミュニケーションに役立てましょう。



● 高次脳機能障害への理解を

片側まひの場合、高次脳機能障害^{*}は外見だけではわからないことが多いため、観察により障害の程度などを把握しながら行うようにしましょう。

^{*} 高次脳機能障害

けが（外傷性損傷など）や病気（脳血管疾患など）で脳が損傷したことによる、認知障害全般を指します。失語（言葉が出てこない）・失行（何をすれば良いかわからない）・失認（ものの認識ができない）のほか記憶障害、注意障害などがあり、日常生活や社会生活の参加が難しいことがあります。スポーツをする際には障害の程度などを把握しながら行うようにしましょう。

● 義肢（義手・義足）などの補装具について

日常生活では、義手や義足などの補装具を使用しても、スポーツをする際には外す人がいます。また、スポーツ用の義足などに付け替える人もいます。保管や着脱の場所について、利用者と相談しましょう。

着脱の際は、損傷部位により人前での履き替えが難しい場合があります。カーテンや個室などの場所があると望ましいです。

なお、補装具はその人に合った特注で作成されているものが多く、履き替えが難しい場合もあります。補装具の履き替えが難しい場合は、靴裏を拭くなど利用にあたっての理解と配慮をお願いしましょう。



個室での補装具の着脱

